



工事の状況(平成25年7月の予定)

2013年7月工事予定

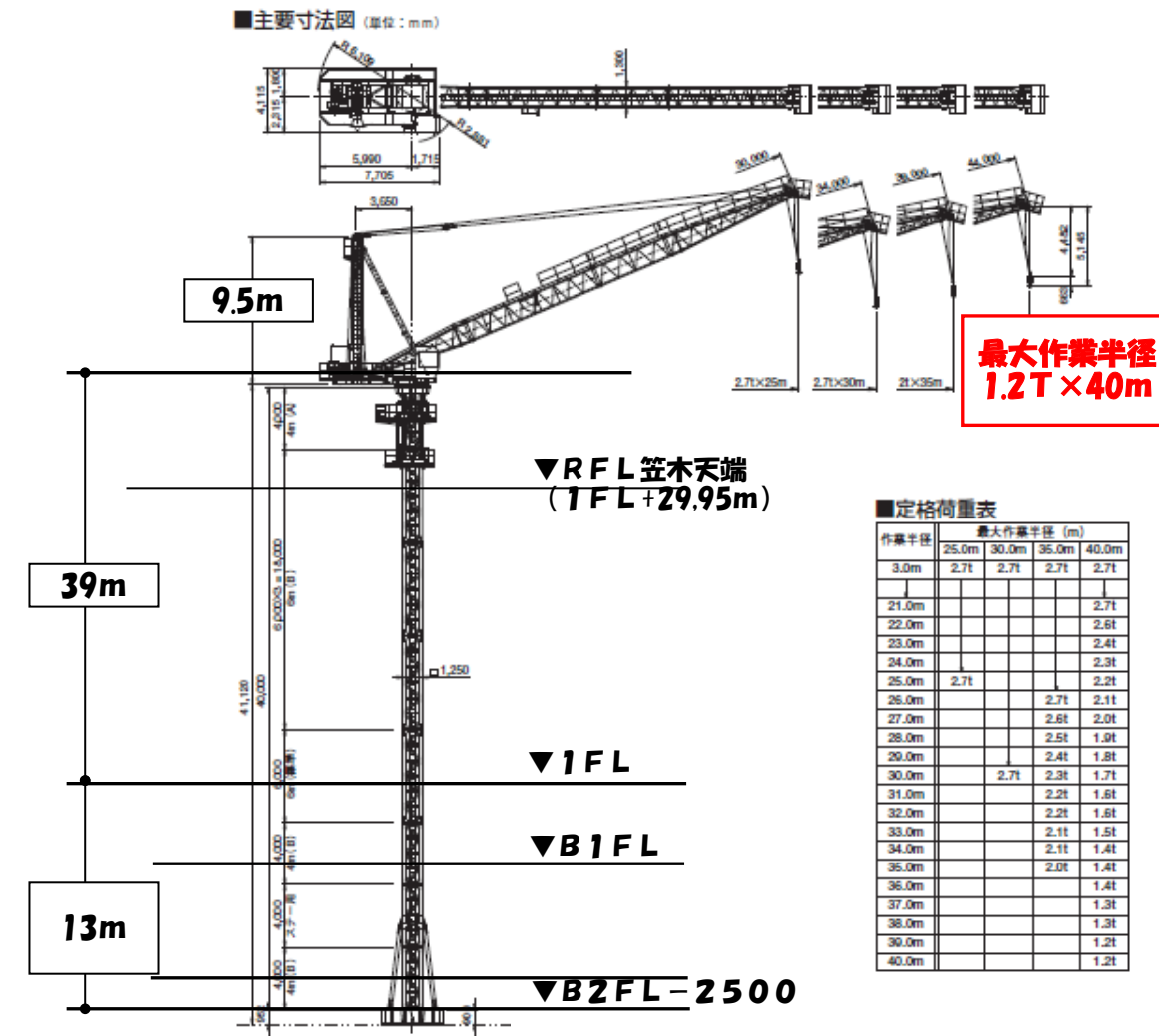
当月も生コン車の往來が連日激しくなります。ご協力をお願いします。

	2013年7月																															8月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
■新病院棟	仮設場重用外-ルーン稼働																																		
仮設工事	外部足場組立						仮設足場組立し・安全施設整備																												
躯体工事	5階						4階立上り5階床躯体工事										5階立上り6階床躯体工事																		
	4階						3階立上り4階床躯体工事										(支保工養生)																		
	3階						柱・壁・型枠解体																												
仕上工事	2階						区画壁LGS・建具・ボード貼り										設備先行配管工事																		
	地下2階~1階						2階立上り3階床コ打設										3階立上り4階床コ打設																		
コンクリート工事	2階立上り3階床コ打設						3階立上り4階床コ打設										4階立上り5階床コ打設																		

※ 当月は、躯体工事は2階から6階へと上がっていきます。また、地下2階から1階・2階では内装仕上工事・天井内設備工事地上での躯体工事を進めながら、地下での仕上工事が始まります工事車輛の出入りが激しくなります。今月も、来院者・歩行者の方々の安全確保を第一に工事を進めていきますので、ご協力お願い致します。



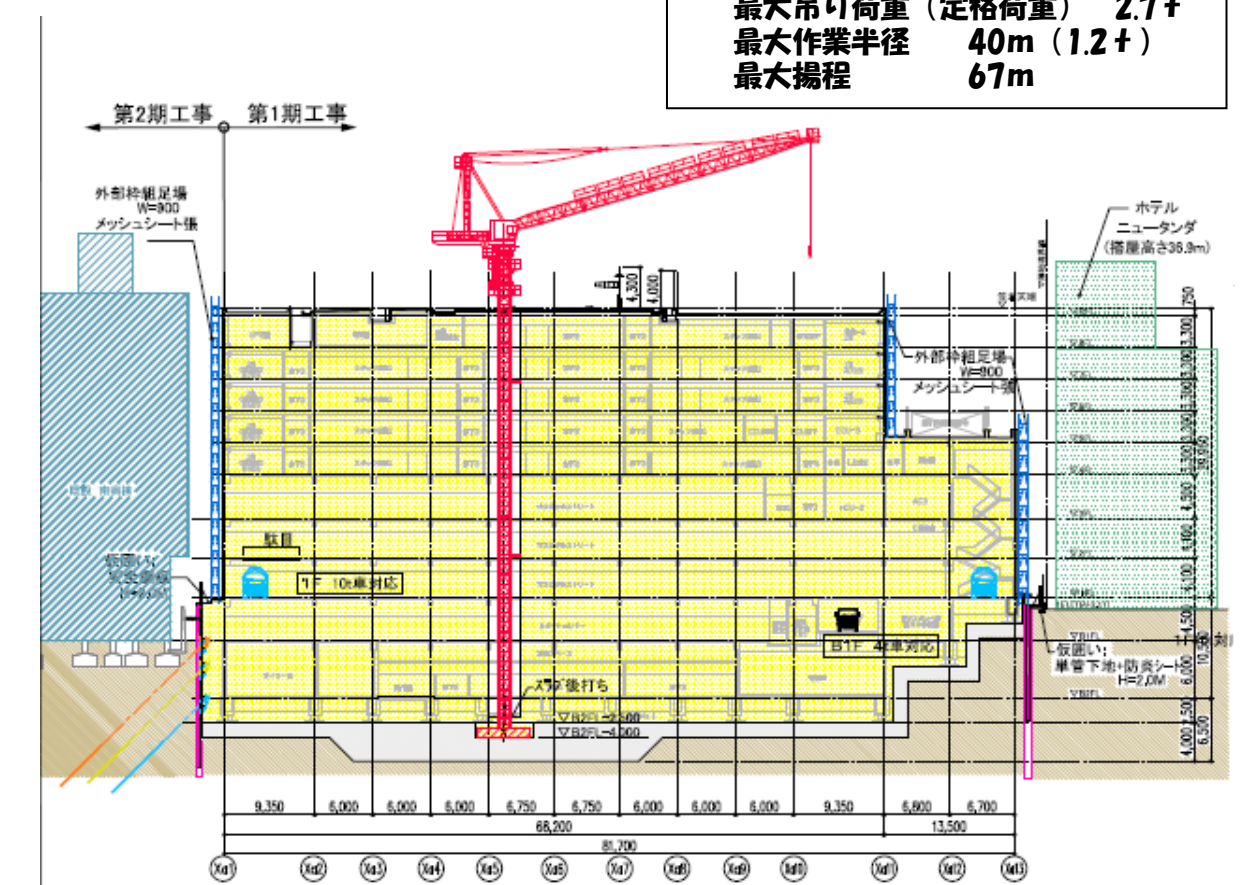
今日は、先月から現場登場し今後、現場で大活躍する「タワークレーン」について説明します。



タワークレーン(OTS-120N II)

タワークレーンの性能について

- クレーン重量 120+
- 最大吊り荷重 (定格荷重) 2.7+
- 最大作業半径 40m (1.2+)
- 最大揚程 67m



6月の工事写真・ダイジェスト



既存南病棟屋上から見た2013年6月末日 工事現場状況



地下2階機械室設備配管工事状況



地下2階機械室シャッター取付状況



タワークレーンの特徴・仕組み

1. タワークレーンの特徴

重い物を吊り上げたり、移動させたりするクレーンの中で、高層ビルや大型建物の建設に欠かせないのがタワークレーンです。移動式のクレーンとは異なり、建物の敷地が狭く重機等の設置スペースのない建物の建設に適しています。移動式クレーン等の様に、入退場の経路や待機場所等を考慮せず容易に長時間の設置に適しています。タワークレーンは、作業が終了すれば解体し、次の建設現場に移動して再び利用します。

2. タワークレーンのクライミング

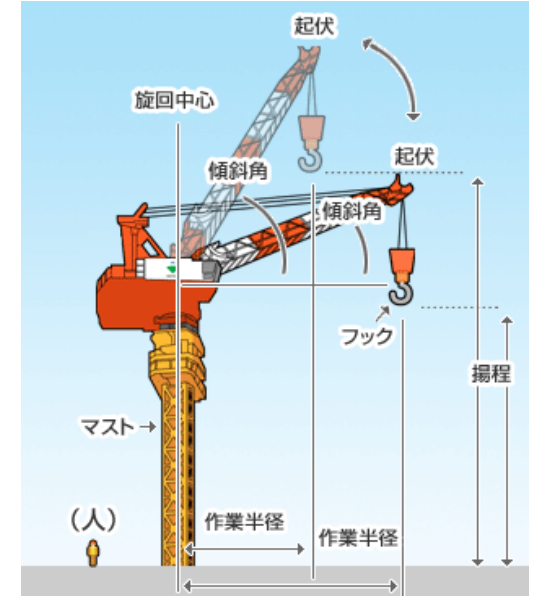
タワークレーンは高い建物をつくるために、自らよじ登ります。これを「クライミング」といい、2種類あります。「フロアクライミング」と「マストクライミング」です。当現場では、「マストクライミング」方式を採用しています。

フロアクライミング

鉄骨造の超高層ビルで使用するタワークレーンは、通常この方式を採用します。クレーンを支える台座ごと建物によじ登っていく方式です。作業半径を有効に活用できる為、比較的小さなクレーンで効率よく作業ができます。

マストクライミング

鉄筋コンクリート造の超高層マンションやビルは、一般的にこの方式で建てられます。クレーンの台座は最初に設置した場所から動かず、クレーンを支えるマスト(支柱)を自ら上部に巻き足し、その伸びた部分をクレーン部分が登っていきます。建物とは別々に設置されますので、組立・解体が比較的容易にできます。



3. タワークレーンの仕組み

吊り能力

吊り能力とは、クレーンに負荷をかけられる最大の荷重の事で、ジフ(腕)の角度(傾斜度)で決まります。吊り荷の位置が遠くなるとジフをより倒す為吊り能力が低くなります。重い荷を吊り上げる場合には、吊り荷を旋回中心に近づけます。

揚程(ようてい)

地上からマスト最上端までの高さの距離の事をいいます。地下部分にフックが下がる場合はこの部分も加えます。現在の標準的なタワークレーンの揚程は最大300mでしたが、東京スカイツリーの建設には最大揚程420mのタワークレーンが使用されていました。

作業半径

クレーンの旋回中心から、フックなどの吊り具の先端までの距離を水平面に沿って測定した距離の事。



長崎さくら

「ながさき」を歩こう